

セラリカNODA社長

野田 泰三氏



「足元の業績はいかがですか。」

「業績はリーマン・ショック以降、緩やかに回復しているが、まだまだというのが率直なところだ。当社は天然ワックスの製造を手がけるが、近年の企業の環境志向がある程度業績を下支えしている。加えて、機能性より安全性を重視する傾向が顕著になってきているのも追い風と言える。この流れに乗って、今後無農薬製品の開発を強化していきたい」

「設備投資は進めていますか。」

「昨年度は考えることすらできなかったが、今年度は5000万円程度を投じ、省力化を目的と

した機械の導入を進めている。また、当社は2年

後に創業180周年を迎えるが、それを期に工場の新設を検討している。ただ、新設となると数億円規模の投資が必要となるため、決定は慎重に行いたい」

「経営面において懸念材料は何かありますか。」

「ワックスの原材料である蜜ロウが含まれたミツバチの巣やヤシの葉、砂漠の砂などの価格が上がり続けているのが心配だ。これらは南米諸国やアフリカなどから輸入するため、本来は円高の影響を受け増益要因になるが、現状ではそうもいかなくなってきている」

「業績回復には社員の

企業の環境志向が追い風

協力も必要となります。

「早朝30分間、自主的にテーマを決めてカイゼン活動を行っている。」

3、4人を1グループにし、グループごとに解決策を考え、それを出し合った中でかんかんがくがくと意見をたたかわせる。これまで事務部門では当社のホームページの改善について、製造部門では工程の見直しについて話し合った。全社員が参加して意見を出し合うことで仕事への意識が変わり、前向きに取り組んでいると感じる」

「中小企業政策について政府に何か注文は。」

「相続税のあり方を考えてほしい。もうけたからと言って優れた会社の事業承継時に多くの税金を徴収してしまえば、企業の力は確実に衰える。ひいては日本の国力を低下させることにもなる。経営者は本業のかじ取りだけでも大変であるのに、節税対策にも頭を悩ませてしまうのは本末転倒。まずは優遇措置の検討を行ってほしい」

(横浜・大楽和範)